風と樹の詩

~いまをみつめて~

社 会 福 祉 法 人 砂 町 友 愛 園 砂町友愛園養護部 施設長 河上準一 〒198-0172 東京都青梅市沢井 1-506 ☎0428-78-8388 fax0428-78-9104 http://www.sunamachi-yuaien.or.jp/ 2017年 秋号

変わらぬもの

施設長 河上 準一

晩秋の冷気を感じる季節となりましたが、園舎の窓から眺める景色は季節の移ろいを感じさせ、周りの山にある植林された杉や檜の間では、広葉樹が赤や黄色に色を染めています。また、園庭のもみじは一段と色鮮やかに季節を感じて、より一層の艶やかさを際立たせています。植林をした遠い過去から現在までの年月を経て、何も変わらず青々とした針葉樹の山々と、四季という時の流れの中で色合いを変えていく広葉樹の変化は、変わりゆくものと変わらないものとの対比を感じさせます。

児童福祉法で定められている児童養護施設もまた、時代の背景やそこから来る要請の中で、その果たすべき役割や機能も変革をしてきましたが、ここ最近も新たな指針として、子どもたちを権利の主体として位置づけ、更に家庭養育などの推進を掲げた児童福祉法の改正が行われ、法改正を受けての新たな社会的養育の在り方として、「新しい社会的養育ビジョン」が示されたところです。今後、要保護児童は今まで以上に、養育家庭への委託へと進んでいくことになりそうです。また児童養護施設も今まで以上に、養育家庭との連携や協働が必要となってくるようです。その時々の時代の流れからくるニーズや求められる役割は、この児童養護の仕事にも変化を求められていますが、一方で変わらぬものの再認識や再確認の大切さを、今改めて感じさせます。

創設者である故井上酉之進先生が、多くの困難を乗り越えて築き上げた社会福祉法人砂町友愛園やここ養護部には、牧師としての信念に基づいた確固たる理念が根幹として存在しています。保育部や養護部の玄関先を見上げると、「Soli Deo Gloria」(ただ神にのみ栄光)と刻まれています。また、養護部の園舎前には、「我はぶどうの樹 汝らはその枝なり」という聖書の言葉が石碑に刻まれています。(この石碑は故井上酉之進先生が逝去された事を受けて、卒園生の会であるヤコブ会の皆様から、先生の業績を讃えて記念碑として建立されたものである)同じように地域交流スペースの演壇には、この聖書の言葉をモチーフにした葡萄の木の素敵なステンドグラスがはめ込まれています。

「物質は有限、愛は無限、愛はあらゆるものの価値を超越する」そんな 故井上酉之進先生からの言葉を思い出し、変わっていく物事へ注視するあ まりに眼が奪われ、変わらぬものに疎くなってしまいがちな自分を戒め、 これからも変わらぬものとしての理念を大切にして、ここ養護部で生活を している子どもたちの支援援助に邁進していきたいと思います。







行事報告

杉の子祭

杉の子祭では子どもや職員がお祭りを盛り上げる為、露店を並べます。今年は青梅市社会福祉協議会から青梅の福祉キャラクターお一ちゃんや、戦隊ヒーローの SUNNYPLACE さんが遊びにきてくれたり、マジックグループ青梅さんがマジックを披露してくれたりとイベントも活気があり、楽しむことができました。







ピーターパン

一般社団法人東京都信用組合協会様のご厚意で、ピータ ーパンの劇を見に行きました。歌と踊り、舞台美術や衣 装演技に皆感動をしました。 職員 浅見

私はピーターパンを見に行きました。特に迫力があったのはインディアンのバク転です。最後にピーターパンが投げた魔法の粉を貰いました。とても嬉しかったです。素敵でした。 小四 女児 T

三田地区文化祭



子ども達が職員と一緒に 作った作品や学校で作っ てきた力作をお披露目し ました。毎年、個性あふれ る作品が展示されていま

す。来年もたくさんの方に見ていただければと思います。

横田基地交流 BBQ

横田基地交流 BBQ では横田基地の方が作ってくださった 本場のハンバーガーやクッキー、カップケーキを思う存分 食べることができ、大人も子どもも大喜び。フェイスペイ ントや水風船投げ、水鉄砲遊びなど盛り沢山の交流イベン

トを企画してもらい、子ども達は終始大興奮でした。 消防車を見学する機会もいただき、ご厚意で乗車する 事も出来て貴重な体験となりました。 職員 澤田



横田基地のBBQに行きました。最初ソーセージとハンバーガーを食べました。次に水で遊びました。次に消防車を見ました。はく力がありました。またBBQに行きたいです。

小四 男児H

ハロウィン

横田基地の方が今年もハロウィンを子ども達と楽しむ

為、遊びに来てくれました。 皆で夢中でかぼちゃを掘っ たり、お菓子を食べたり、 仮装をしたりして皆で楽し むことができました。あり がとうございました。



みらいの森サマーキャンプ

児童養護施設で暮らす子ども達の為に、アウトドアプロ グラムを通じて生涯の糧となる体験を作り出し、幸せな 実りある成長をサポートしていこうという取り組みをし ている NPO みらいの森からキャンプのお誘いを頂き、 4泊5日で、宮城県くりこま高原へ行ってきました。みら いの森では【思いやり】【勇気】【責任感】【尊敬しあう】 【リーダーシップ】、この5つを大切にしています。子ど も達は毎日この中から自分で一番頑張りたいと思うもの を選び、ハイキング、沢登り、モリンピック、野外クッ キング等のプログラムに参加しました。自分が決めた目 標に向かう子ども達はチャレンジ心に溢れていました。 一人一人のやる気が目標の達成に繋がり、成功が子ども 達を一回りも二回りも大きくしてくれました。「また行き たいね!」「楽しかったね!」と子どもから声が上がるほ ど思い出に残るキャンプでした。 職員原島

みらいの森のキャンプでは、イングリッシュキャンプを やって、最初の日は友達が 3 人できました。さわのぼり をしたり、クッキングをしたりして、最後の日はキャン プファイヤーをしました。とっても楽しかったです。別 れる時は、悲しかったけど、行ってよかったです。

小四 男児 H

臨海

今年も臨海に出かけてきました。施設全体で行く、夏のこの恒例行事を子ども達は楽しみにしています。海で泳いだり、砂で遊んだり、生き物を探したりと、子どもそれぞれに楽しみ方があります。今年度は、より思い出に残る行事にしようと、例年とは少し変化をつけて、鴨川シーワールドへも出かけました。初めて目にする水生動物の不思議さや、シャチのショーで体感した生き物の迫力は、普段はできない貴重な経験です。今年の臨海も子ども達の心に大切な思い出の一つとして残ってくれることを願います。 職員 米沢

今年はいつもは行かない水族館が盛り込まれてて、一段と楽しむことができました!! 時間は限られていたけれど、意外とショーもたくさん観れたし、満喫しました。そして、例年通り、ホテルの食事はやっぱりおいしくて食べすぎちゃったし、海ではおもいっきり遊べました。普段とは違うメンバーでの三泊四日間。さまざまなイベントもあり毎年とても楽しみです。 中二 女児 K

今年で2回目の臨海行事。ご飯の時に出てくる、えびをすごく楽しみにしていました。しかし、食べ方を忘れてしまい上手に食べることができずあまり食べられませんでした。去年は初めての臨海行事で友愛園に来てまだ日も浅かったので、すごく緊張もしていたのですが、2回目となると、さすがに慣れ、普段あまり喋らない子とも仲良くなれました。今までの私だったらずっと一人で過ごしていたと思います。それが友愛園に来て一年で自分から声をかけられるようになったのはすごい成長だと思います。そのことに気付かされた臨海行事でした。

高一 女児 C







臨海の1日目に、鴨川シーワールドにいってきました。めったに見られない魚などがいて、すごくキレイでした。そこで、昼ごはんを食べて、ショーなど色々見に行きました。すごく楽しかったです。夜は宿舎でビンゴ大会をして夜を過ごしていました。すっごくたのしかったです。2 日目は海へいって、いっぱいあそんだり、およぎました。昼ごはんは外で食べて夜に花火を見て「キレイだな~」と思いました。3 日目は、2 日目と同じで海であそんで、およぎ、スイカ割りをして、夜は同じ部屋の人たちと遊んで過ごしました。4 日目はもう帰る日でした。私はまだ帰りたくなかったけど、お土産を買って帰りました。すごく楽しい臨海でした。また行きたいです。

ディズニーランド

一般社会団法人子供みらい基金様のご厚意でディズニーランドに M ちゃんと行ってきました。園行事で何度か行ったことのあるディズニーランドでしたが、今回はアトラクションや食べるものなど、極力 M ちゃん自身に決めてもらい、M ちゃんのしたい事を最大限にやってもらうことができとても楽しそうな笑顔をみることができました。小学校生活最後の夏休みに、このような素敵な思い出作りをさせて頂き、とてもうれしく思いました。

職員 小島

8月に小島さんと一緒に電車等に乗って ディズニーランドに行きました。プーさ んのハニーハントのチケットを取りに行 って色々乗り物に乗りました。おいしい ものもたくさん食べました。6年間の中



ですごく思い出に残りました。とても \overline{c} のしかったです! 小六 女児 M

野球招待

夏休みに公益財団法人報知社会福祉事業団様からのご招 待で、子ども達を連れて東京ドームにプロ野球の試合を 観戦しに行きました。今回は巨人対阪神の伝統の一戦と いうこともあり、観客の応援にも熱が入り、手に汗握る 熱戦を子どもも楽しみながら観戦していました。自分自 身も野球経験者ということもあり、砂町友愛園の職員と なってからも何度か子ども達と一緒にプロ野球を観戦に 行っていましたが、毎回子ども達以上に楽しませてもら っています。子ども達にしてみても、野球場という非日 常的な空間に入ると、球場のあまりの大きさや観客の多 さ、そこで行われるプロの選手による素晴らしいプレー に驚き、目を輝かせながら観戦する姿が印象的です。一 緒に観戦に行った子ども達がプロの姿を見て夢を抱き、 将来は選手として砂町友愛園を訪問にきてくれるような ことがあればなと、職員としては少し期待してしまった りもします。 職員 大田

職員の一人ひとりのキャリアアップに力を入れています

外部研修

全国子ども研究会、明治安田こころの健康財団、東京都福祉人材センター、児童部会等、今年も様々な研修 に行ってきました。受講して学んだ事は多くあり今後の職員としてのありかたを勉強する事ができました。

「【全社協キャリアパス対応生涯研修課程】初任者研修 」を受講しました。この研修では、主に初任者の在り方、チ ームの一員としての役割、問題解決の手順の明確化、この先のキャリアデザインについての大きく3つを学ぶことが出 来ました。まず、福祉職は個人では絶対に動けず、チームで動く事が必要不可欠で、その連携の有無によって利用者に も与える影響が変わってきてしまいます。その中でもメンバーシップとフォロワーシップの関係があり、初任者は指示 されたことは確実にこなし、チームの一員としてその姿を謙虚に表す事が大事である事を学びました。次に、チームで 動いている中でも様々な問題が起こります。これに「気付く」事が問題解決への第一歩となり、そこから原因究明や解 決策の立案を行う事を実際のケースを利用し、班毎に討論して発表を行いました。現実に起きた場合のイメージが膨ら み想像しやすくなりました。3 つ目に、初任者として出来ている事、必要な事、大切にしたい事を個人で挙げ、グルー プ討論を行いました。中でも全員一致だったのが「報告・連絡・相談」。これが1つでも欠けると、大きなミスを招きか ねないという考えに至りました。福祉の職種はそれぞれだが「命を預かる仕事」は福祉職共通である事を再認識させら れました。今回の研修は、今までやってきたことの見直しが出来、更にこれからのキャリアデザインについて考える事 が出来ました。この経験を忘れず、この先の業務にも是非生かしたいと感じました。 職員 原島

園内では初任者に向けた、ペアレントトレーニングや、中堅研修、性について、権利について、危機管理について等さま ざまな園内研修を行っています。これらの研修では直接支援職員のみならず、心理職員からの目線、事務職員からの目線 等、それぞれの専門からの目線での研修も取り入れ子どものよりよい支援につながるように、スキルアップをしています。



今年の危機管理研修では、園の立地から、常に意識をする必要のある土 砂災害についての対応を話しあい、各職員グループを作り危機意識を高 めました。山なりや川の様子を雨が降っている時だけではなく、日ごろ からよく注意してみる事、メッシュ情報を気にする事、災害時のマニュ アルの改正等、有意義な意見交換ができました。



国際ソロプチミスト青梅様より寄附をいただきました。国際ソロプチミストは、社会的・経済 的エンパワーエントをもたらすプログラムを通じて、女性と女児の生活を向上させるために地 域社会や国際社会において活動している女性による奉仕団体です。1945年に国際連合が誕生 をした時から国際連合に協力をしており、1950年には経済社会理事会(ECOSOC)の諮問的地 位を獲得し、国際児童基金(UNICEF)、世界保健機構(WHO)やその他の国際機関にも協力して います。このような活動の中で当施設にも、継続的に支援をしていただいています。

募集しています

○フレンドホーム

家庭で生活することができない子どもを、夏休み、冬休み、土曜日、日曜 日、祝日など、学校がお休みの期間に、ご都合の良い数日間お預かりいた だける方を募集しています。おおむね3歳から12歳の入所児が対象で す。

○ボランティア

子どもに勉強を教えてくださる方、一緒に遊 んでくださる方、行事のお手伝いをしてくだ さる方を募集しています。